

# CANVAS-SA<sup>®</sup>チャート

	ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4	ステップ5	ステップ6	ステップ7	ステップ8	開発業務
名称	背景の確認・共有化	現状の調査・分析	現状の診断	新システム課題の統合化	ジョブ・アーキテクチャ	システム・アーキテクチャ	開発マスタープランの策定	新システム構想の報告と承認	開発
考え方の流れ	経営方針・戦略・目的	現場のニーズ 不足しているものを追加 無駄なものを削除	真のニーズ	業務課題 システム課題 目的 システムコンセプト	ジョブ・アーキテクチャ	システム・アーキテクチャ	マスタープラン	意思決定	業務改善 システム開発
目的	新しい情報システムを構想するに至った背景を確認し、共有化する。	対象業務および現行システムを調査・分析する。	問題点・ニーズを評価し、対象範囲、改善・改革の方向性および解決の方向性を明らかにする。	新システムの課題、目的およびシステム・コンセプトへの統合を行う。	新システム導入後の業務のあり方（ビジネス・プロセス）について検討する。	ジョブ・アーキテクチャに基づいてシステム化の実現手段を検討する。	新システムの開発方針を策定し、期待効果および開発コストを見積もる。	システム構想を取りまとめて意思決定者に報告し、システム開発の承認を得る。	業務改革・業務改善やITシステム構築に着手する。
成果物	■背景確認シート	■業務体系図 ■業務洗い出し表 ■業務情報ダイアグラム ■業務データ量調査表 ■SPECAアンケート ■インタビュー・メモ ■問題点・ニーズ一覧表	■問題点・ニーズ調整表 ■問題点・ニーズ診断表	■システム課題の優先順位表 ■システム化目的とシステム・コンセプト ■実現手段のイメージ ■中間報告書	■BPチャート ■業務データ量調査表 ■システム運用方針 ■セキュリティ方針	■概念DBモデル ■アプリケーション・ソフトウェア構成 ■H/W、N/W構成図 ■システム・ソフトウェア構成図 ■開発環境計画 ■カットオーバー計画	■業務系継続検討項目一覧 ■プロジェクト体制 ■マスタスケジュール ■システム効果表 ■開発コスト	■新システム構想書	

← ビジネス分析（業務分析）フェーズ

← プランニングフェーズ →

## DX時代、企業とITに求められること

コロナ禍で各企業におけるデジタルを活用した抜本的事業変革・業務改革（DX）への取り組みは急速に加速することとなりました。

従来は、企業の競争優位性を確保する為のIT活用が主流でしたが、これからはデジタルが事業を創造する時代です。社会情勢や経営環境が不安定・不確実な今、経営層・事業部門・IT部門の垣根を超えて、柔軟かつスピーディーにITを導入し活用できる態勢づくりが求められます。

企業にとってITシステムは構築することより、構想することの重要性が増しており、投資を伴うIT導入には、見積もった費用・期間の範囲内の経営目的の達成、利用者の納得など質の高さが求められております。企業のIT活用においては、上流工程がその重要なキーポイントです。

## IT上流工程とは

IT化ニーズを業務と経営メリットの観点から分析・診断し、経営戦略・経営目的・業務目標に沿ったIT化の構想を企画立案し、意思決定者に承認を得るプロセスこそが上流工程です。

このプロセスにIT部門だけでなく、ITを利用しビジネスを遂行する事業部門や、IT投資の意思決定を担う経営層が積極的に参加することにより、効果・費用の両面で関係者の希望を満たし、実現可能なIT化計画に落とし込めるものと考えます。

## CANVAS-SA®とは

弊社の業務改革を踏まえたシステムコンサルティングの経験から生み出した、独自のIT上流工程方法論です。

### ■ CANVAS-SA®の特徴

- 上流工程を8つのステップに分け、進める中で、一貫して経営目的とシステムの関係を追及する
- 単なる手順や成果物フレームだけでなく、実践を通じたノウハウ(アプローチの仕方、ものの見方・考え方)を提供できる
  - ▶ 現場のニーズから如何にして真のニーズを導き出すか、真のニーズから如何にして業務課題、システム課題、コンセプトを導くか（前半のステップ：ビジネス分析フェーズ）
  - ▶ システム課題を実現可能なIT化計画にするために、将来のビジネスプロセスとシステム実現方式をどう考えるか（後半のステップ：プランニングフェーズ）